

山梨日日新聞

県中西部

降水確率(%)	0	10	10
6~12時	0	10	10
12~18時	0	10	10
18~24時	0	10	10
最低	19	28	

県東部五湖

降水確率(%)	0	10	10
6~12時	0	10	10
12~18時	0	10	10
18~24時	0	10	10
最低	15	23	

詳細は2面に

9/26 金

産科医確保東大と連携

研修充実、つなぎ止め

山梨大

山梨県内で深刻な産婦人科医不足が続く状況下、山梨大は10月から、医師確保に向けて東大と連携を始める。西大付属病院に後期研修医の交換研修を導入し、山梨で研修を受ける医師が3年のうち半年を東大で学べるようにする。都市部での研修や勤務を志向する傾向が強い「医師の卵」に対し、研修先として県内の病院を選択しても、東京の高度医療に触れられる機会を設けることで、地方に「つなぎ止める」のが狙い。山梨の産婦人科医を確保し、妊婦が安心して出産できる環境づくりにつなげる。〈青柳秀弥〉

研修医は各診療科を経験する初期研修(2年)後、専門とする診療科を決め、後期研修(3年)で専門医としての資格取得に必要な知識や技術を習得。後期研修後は受け入れ先に勤務する傾向が強く、山梨の産婦人科医不足の背景

研修医は各診療科を経験する初期研修(2年)後、専門とする診療科を決め、後期研修(3年)で専門医としての資格取得に必要な知識や技術を習得。後期研修後は受け入れ先に勤務する傾向が強く、山梨の産婦人科医不足の背景

研修が始まる10月以降は、希望により、選択期間の1年のうち半年間を東大医学部付属病院で学ぶことになる。

交換研修では、子宮摘出のロボット手術など県内の病院ではできない高度医療に触れられる。一方で、病院側としては、「山梨と東京の両病院を経験してもらうことで、結果的に山梨でも都市部の病院と変わらずスキルアップが可能だと認識してもらおう」(山梨大)狙いもあるという。

県内の人口10万人当たりの産科、産婦人科医数は全国より0.4人少ない8.2人。山梨大によると、現在の県内の産婦人科医療の体制を維持

するには年3人程度の後期研修医を確保する必要があるが、06~10年度は計5人。11~14年度は計13人と増えたが、産婦人科医不足を解消するには至っていない。

県内では医師不足で分娩を休止する病院が相次いだ。山梨大医学部産婦人科の平田修司教授は「休止した病院で分娩を再開するには、年4人以上の医師を継続して確保する必要がある。研修内容の充実により、県内の産婦人科医を増やしたい」と話している。

には、近年、後期研修医が少なくなることがあるとされる。県内では2012年度、病院ごとに募集してきた産婦人科の後期研修医について、出産を扱った病院が一括して受け入れるプログラムを開始。市立甲府、山梨赤十字など5高度な産科医療など各病院病院から選択。東大との交換

の得意分野を幅広く学べることを特徴とし、研修医を確保しやすい環境を整えた。産婦人科の後期研修医は山梨大付属、県立中央の両病院で1年ずつ学び、残り1年を市立甲府、山梨赤十字など5